

●杉本 能 (2001～)

パウル・クレー「ペダゴジカル・スケッチブック」による習作Ⅲ『**Earth, Water & Air**』(2024)

■プロフィール

常葉大学短期大学部音楽科卒業、同専攻科音楽専攻修了。同大学学長奨励賞を2度受賞。現在、国立音楽大学大学院修士課程作曲専攻に給費奨学生として在学中。作曲を塚本一実、田村修平、伊藤康英、森広樹、川島素晴に師事。

プログラム・ノート

フルート独奏(無伴奏)のための作品。パウル・クレーのスケッチに啓発を受け、それに倣った結果として、「音による時間と空間のデッサンを経て、そのプロセスの結実として作品が構築されるということ、をひとつのテーマとして志向する」という創作態度に至った。とりわけ本作では、「単なるトランスに留まらせず、ダイナミックな音の軌跡を描く」ということを、殊更に意識することになる。

これまでに同シリーズの作品として2作あり、第1作が2本のバスクラリネットのデュオ、第2作がバスクラリネットとサクソフォンのデュオである。

●鷹羽 咲 (2001～)

『**エマルション**』クラリネットとヴァイオリンのための(2024)

■プロフィール

愛知県出身。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。3歳からピアノを、5歳から作曲を始め、15歳から本格的に作曲を学ぶ。これまでにピアノを尾之内直子、馬場マサヨ、作曲を飯田真樹、小林聡羅、安良岡章夫に師事。

プログラム・ノート

この作品は、水と油の「乳化」から着想を得て作曲した。

本来油分と水分は互いに混ざり合おうとしない。しかしそこに界面活性剤を加え、時には液体の温度を上げ、攪拌すると「乳化」する。

この作品では、クラリネットとヴァイオリンが最初は「分離」した状態から、奏法による音色の変化→リズムの出現→音域・音高の共有という順に次第に新たな素材を迎えながら、まるで水と油が乳化するように溶け合い「調和」していくことを目指した。

また本作では「指定した音程で縦横斜めに音を配置した図を作成し、隣り合う音同士を行き来できる」というルールのもと音選択を行った。

●浦野真珠 (2002～)

『**BAT and CACTAS**』弦楽三重奏のための(2024)

■プロフィール

福島大学人間発達文化学類芸術表現コース4年在学中。第35回TIAA全日本作曲家コンクールソロ部門第3位。作曲を小林直央、横島浩、嶋津武仁に師事。

プログラム・ノート

本作を作曲するにあたり「ゲッカビジン」というサボテンからインスピレーションを受けた。このサボテンはコウモリが送粉者となり、一年に一晩だけ、それも新月や満月の夕方から夜にかけて大きな花を咲かせ、朝には萎んでしまうという逸話で知られている。

この作品では3つの楽器それぞれの音の要素を特徴的な受粉過程のイメージと結びつけている。それは私自身も創作する上でこのコウモリのように“瞬間の美”を生み出すための送粉者でありたいと考えたからである。